

## 1. 性犯罪・性被害の予防に関する教育・指導の充実

### ◆性に関する指導の充実

- ・学校における性に関する指導は、小・中・高等学校において学習指導要領に基づき、児童生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動を取れるようにすることを目的として、体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて実施。
- ・教職員を対象とした健康教育指導者養成研修や教育委員会担当者を対象とした会議において研修等を実施。
- ・小・中・高校生向けに性感染症や妊娠・出産等を含む児童生徒の健康問題を総合的に解説した教材を文部科学省HPに掲載するとともに、教育委員会担当者が集まる会議等において周知。
- ・厚生労働省と連携し、性に関する指導において産婦人科医や助産師等の外部講師を活用することについて教育委員会へ周知。

### ◆犯罪被害に遭わないための安全教育

- ・防犯、防災、交通安全に関する注意事項を学べるリーフレットを作成、全国の小学1年生に配布し、「知らない人にはついていかない」など犯罪に巻き込まれないための防犯教育を実施。
- ・都道府県等において、学校安全教室の講師となる教職員等に対する指導法等の講習会を実施。
- ・『危機管理マニュアル作成の手引き』における「個別の危機管理」として、自画撮り画像の送信やインターネット上で知り合った人と会うことによる犯罪被害について、危機管理マニュアルにおいて想定すべき事例として注意喚起。

### ◆情報モラル教育に関する指導の充実

- ・各地域で情報教育の中核的な役割を担う教員等を対象とした研修（（独）教職員支援機構）や教員等を対象としたセミナーを実施するなど、情報モラル教育に関する教員の指導力向上のための取組を推進。
- ・児童生徒向けの動画教材や教師用指導手引書の内容を充実するなど、情報モラル教育の充実を図るための取組を推進。
- ・児童生徒向け啓発資料「ちょっと待って！スマホ時代のキミたちへ」を作成し、全ての小学6年生に配布するとともに、文部科学省HPに掲載。

## 2. 相談体制の充実

### ◆被害児童の早期発見・支援のためのスクールカウンセラー等の配置

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、相談体制の整備を支援することなどにより、性被害等に遭った児童が相談しやすい体制を整備し、早期発見等に資するとともに、養護教諭等と連携しながら児童生徒の心のケアに対応。

### ◆SNS等を活用した相談事業

- ・いじめを含む様々な悩みに関する児童生徒の相談に対応するため、SNS等を活用した相談体制の構築に関する都道府県等の取組を支援。

## 3. 関係機関・地域との連携による啓発

### ◆関係機関との連携による啓発の推進

- ・インターネット利用に起因する性被害防止に向けて、文部科学大臣と国家公安委員長による共同メッセージを発出するとともに、啓発リーフレットを作成し教育委員会等を通じて各学校の児童生徒や保護者に周知。
- ・警察庁作成による児童の性的搾取等に係る被害相談窓口及び支援の周知に関するリーフレット(小学生用)を教育委員会等を通じて児童や保護者に周知。
- ・AV・JK問題等の若年層を対象とした性暴力の現状と課題への対応について、教育委員会や大学等に対し通知を発出し、予防の観点からの指導や被害に関する相談への対応を充実することを依頼。警察庁等と連携し、相談窓口情報や被害事例を掲載した啓発資料を作成、大学や教育委員会へ配布・周知。
- ・各大学の学生支援担当者等が集まる会議を通じて、啓発活動の実施や相談体制の整備等について対応を依頼。(独)日本学生支援機構においてメンタルヘルスやカウンセリングに関する基礎知識等の理解を深めるワークショップを実施。

### ◆地域における啓発活動

- ・各地域でPTA等と連携して実施する、インターネット上のマナーや家庭でのルールづくりを周知するための学習・参加型シンポジウム(ネットモラルキャラバン)において、警察庁によるネットやSNSを通じた性犯罪被害の実態について講演を実施。
- ・各地域の家庭教育に関する学習機会において、子供の携帯電話やインターネット利用について理解や知識を深めるための講座等を実施するとともに、保護者向け啓発資料を文部科学省HPに掲載。

## 4. 教職員の資質向上

### ◆教職員を対象とした研修

- ・1における各種教員研修のほか、(独)教職員支援機構において、組織的な相談体制や教職員の専門性向上を図る研修及び服務関係を学ぶ演習を実施。

# 参考資料

# 性に関する指導について

- 学校における性に関する指導は、学習指導要領に基づき、児童生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動を取れるようにすることを目的に実施されており、体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて指導することとしている。
- 指導に当たっては、①発達の段階を踏まえること ②学校全体で共通理解を図ること ③保護者の理解を得ることなどに配慮するとともに、④事前に、集団で一律に指導（集団指導）する内容と個々の児童生徒の状況等に応じ個別に指導（個別指導）する内容を区別しておくなど、計画性をもって実施することが大切である。

## 学習指導要領解説（体育科、保健体育科）の主な記述

### 小学校

- 体は思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること（変声、発毛、異性への関心も芽生えることについても理解できるようにする）

### 中学校

- 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること、また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること（射精、月経、性衝動、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要になることを理解できるようにする）
- 妊娠や出産が可能となる観点から、受精・妊娠を取り扱うものとする
- 感染症については、後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても取り扱うものとする

### 高等学校

- 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること（受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて理解できるようにする）
- 感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること（エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策についても理解できるようにする）

## 文部科学省の取組

- 教職員を対象とした健康教育指導者養成研修や教育委員会担当者を対象とした会議において研修等を実施
- 小・中・高校生向けに性感染症や妊娠・出産等を含む児童生徒の健康問題を総合的に解説した教材を文部科学省HPに掲載するとともに、教育委員会担当者が集まる会議等において周知
- 厚生労働省と連携し、性に関する指導において産婦人科医や助産師等の外部講師を活用することについて教育委員会へ周知



# 学校安全教室の推進

令和2年度予算額（案） 35百万円  
（前年度予算額 32百万円）



- 児童生徒等を取り巻く多様な危険を的確に捉え、**児童生徒等の発達段階や学校段階、地域特性に応じた取組**の推進が必要
- 地域間・学校間・教職員間の差を解消**し、全ての学校で質の高い学校安全の取組を推進できる指導力の確保が必要

## 都道府県等における教職員等への研修の実施

### 安全教育の指導者の養成

学校安全教室の講師となる教職員等に対する指導法等の講習会を実施

#### 防犯教室講習会

- 登下校時の危険と対処方法に関する指導
- 登下校の安全確保のポイント
- 不審者侵入時の対応など、学校における防犯対策等



#### 防災教室講習会

- 災害時の危険予測・回避能力等を育むための指導
- 自然災害発生時の適切な判断と避難
- 学校や地域の実情に応じた防災マニュアルの作成等



#### 交通安全教室講習会

- 被害者・加害者にならないための交通安全教育
- 交通安全教室での効果的な指導方法
- 自転車・二輪車等通学手段に応じた指導方法等



### 教職員等の安全対応能力の向上

事故等発生時の初期対応能力等向上のための講習会を実施

#### 事故対応に関する講習会

- 事後対応等の学校の危機管理の在り方に関すること
- 第三者委員会などの検証組織の必要性・在り方に関すること等



#### 心肺蘇生法実技講習会

- 蘇生法訓練用人体模型（シミュレーター）を用いた実技講習等

## 小学生低学年向けリーフレットの作成・配布

- 防犯、防災、交通安全に関する注意事項をクイズ形式で学べるリーフレット「たいせつないのちとあんぜん」を作成し、全国の新1年生全員に配布

教職員等の  
安全教育に  
おける**指導  
力の向上**

教職員等の  
**安全対応  
能力の向上**

児童生徒等が  
**安全に関する  
資質・能力**  
を身に付ける

児童生徒等の  
障害や重度の  
負傷を伴う  
**事故の減少**

児童生徒等の  
**死亡事故の  
発生件数  
の減少**



＜リーフレット「たいせつないのちとあんぜん」＞



## 趣 旨

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、全ての学習の基盤となる「情報活用能力」の育成に向けて、以下の取組により、小・中・高等学校を通じた情報教育の強化・充実を図る。

## （１）情報教育指導充実事業

4 1 百万円

### ①情報教育関係教科における免許外教科担任の解消に向けた調査研究

情報教育関係教科における免許外教科担任を減少させるための調査研究を実施

- 1) 免許外教科担任の解消に向けた複数校指導モデルの創出
- 2) 複数校指導実施時のポイントをまとめた手引の作成

### ②現職教員の情報教育に係る指導力向上事業

情報活用能力育成に関わる現職教員の指導力向上に資する教員研修用教材の作成

- 1) 中学校の技術・家庭科（技術分野）「D情報の技術」の教員研修用教材の作成
- 2) 高等学校「情報Ⅰ」の教員研修用教材の作成

### ③指導体制充実事業

情報教育の指導体制を充実するため、学校における情報関係人材の活用を促進するための調査研究を実施

- 1) 情報関係人材の活用促進に資する人材研修カリキュラムや指導モデル開発
- 2) ICT支援員の雇用形態や活用状況に関する調査研究と配置促進

### ④プログラミング教育促進事業

新学習指導要領において小・中・高等学校を通じて充実されたプログラミング教育を確実に実施していくため、教員等にとって有益な情報提供を行う。

## （２）児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究

5 5 百万円

情報活用能力を定期的に測定するための小学校・中学校・高等学校等における児童生徒の情報活用能力調査を全国規模で実施

- ①予備調査の実施
- ②本調査実施に向けた実施方法の検討、調査対象校の抽出

## （３）情報モラル教育推進事業

3 7 百万円

スマートフォンやSNSの急速な普及を踏まえ、情報モラル教育の指導資料の改善・充実や児童生徒向け啓発資料の作成・配布等を実施

- ①情報モラル教育の推進に係る指導資料の改善
- ②児童生徒向け啓発資料の作成・配布
- ③情報モラル教育指導者セミナーの開催
- ④学校におけるICT機器利用における健康面への影響に関する調査

- ◆ 義務教育段階の不登校児童生徒数は、平成24年度から6年連続で全体の人数・児童生徒千人当たりの人数ともに増加しており、様々な課題を抱える児童生徒への早期支援、不登校状態にある児童生徒への手厚い支援に向けた相談体制の充実が必要。
- ◆ また、社会問題化している昨今の児童虐待相談対応件数の急増等を踏まえ、学校における児童虐待の未然防止・早期発見や、児童虐待発生時の迅速・的確な対応に向けた相談体制の充実も喫緊の課題。



スクールカウンセラー等活用事業

令和2年度予算額（案）：4,866百万円（前年度予算額：4,738百万円）

- ✓ 補助率：1 / 3
- ✓ 補助対象：都道府県・政令市



- ✓ 児童生徒の心理に関して専門的な知識・経験を有する者（公認心理師、臨床心理士等）  
⇒児童の心理に関する支援に従事（学教法施行規則）

- ✓ 全公立小中学校に対する配置（27,500校）

- いじめ・不登校対策のための重点配置：500校（新規）  
※不登校特例校や夜間中学への配置を含む
- 教育支援センターの機能強化：250箇所

- 虐待対策のための重点配置：1,000校（新規）
- 貧困対策のための重点配置：1,400校

- スーパーバイザーの配置：67人（新規）

スクールソーシャルワーカー活用事業

令和2年度予算額（案）：1,806百万円（前年度予算額：1,722百万円）

- ✓ 補助率：1 / 3
- ✓ 補助対象：都道府県・政令市・中核市



- ✓ 福祉に関して専門的な知識・経験を有する者（社会福祉士、精神保健福祉士等）  
⇒児童の福祉に関する支援に従事（学教法施行規則）

- ✓ 全中学校区に対する配置（10,000中学校区）

- いじめ・不登校対策のための重点配置：500校（新規）  
※不登校特例校や夜間中学への配置を含む
- 教育支援センターの機能強化：250箇所（新規）

- 虐待対策のための重点配置：1,000校（新規）
- 貧困対策のための重点配置：1,400校

- スーパーバイザーの配置：67人（←47人）

重点配置等

いじめ  
不登校

虐待  
貧困

質の向上

## <背景>

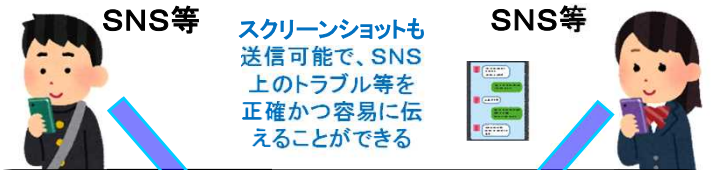
- いじめを含め、様々な悩みを抱える児童生徒に対する相談体制の拡充は、相談に係る多様な選択肢を用意し、問題の深刻化を未然に防止する観点から喫緊の課題。
- また、座間市におけるSNSを利用した高校生3人を含む9人の方が殺害された残忍な事件を受け、ネットを通じて自殺願望を発信する若者が適切な相談相手にアクセスできるよう、これまでの取組の見直しが求められている。
- スマートフォンの普及等に伴い、最近の若年層の用いるコミュニケーション手段においては、SNSが圧倒的な割合を占めるようになっている。

（参考）  
H30年[平日1日]コミュニケーション系メディアの平均利用時間（令和元年度版情報通信白書（総務省））  
10代：携帯電話3.1分、固定電話0.0分、ネット通話5.1分、ソーシャルメディア利用71.6分、メール利用13.5分

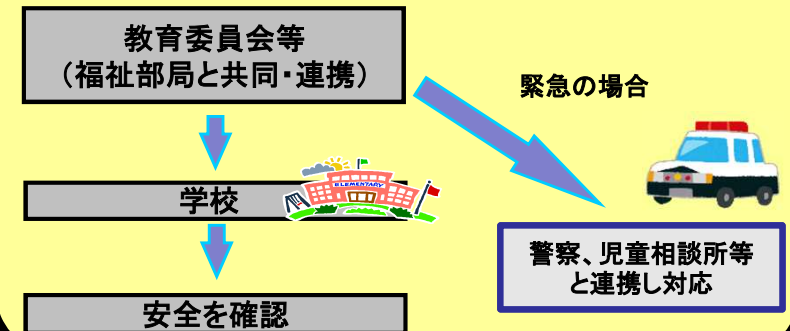
## <事業概要> ① SNS等を活用した相談体制の構築に対する支援 ② SNS等を活用した相談体制の在り方に関する調査研究

- 事業形態：①補助事業（補助率：定額） ②委託事業
- 実施主体：①原則、都道府県・指定都市  
※ 但し、指定都市を除く市区町村は、将来的な都道府県等による広域的な相談体制の構築に資すると認められる場合に限る。  
②民間団体等
- 実施箇所：①30箇所 ②1団体
- 事業内容：
  - ・ 相談対象者：原則、児童生徒
  - ・ 相談受付時間：児童生徒が相談しやすい平日午後5時～午後10時までや、長期休業明け前後や日曜日など。
  - ・ 実施内容：
    - ①既に相談体制が立ち上げられている地域において、児童生徒が相談しやすいよう改善を図った相談体制を構築。（既に文部科学省の事業を実施した自治体に限る。）
    - ②相談体制が立ち上げられていない地域においてSNS等を活用した相談を行いつつ、効果的・効率的な相談受付日や受付時間等、適正規模の相談体制の在り方、相談技法やシステムの確立等の研究を行うとともに、SNS等を活用した相談と電話相談の有機的な連携の仕組みを明らかにする調査研究。

## 【イメージ】SNS等を活用した相談



## （例）自殺をほのめかす等、命に関わる相談の場合の連絡の流れ



さらに、広く若者一般を対象としたSNSによる相談事業を実施する厚生労働省と、児童生徒を対象とする文部科学省がそれぞれの取組から得た知見を共有するなど連携し、SNS等を活用した相談対応の強化を図る。



# ネットには 危険もいっぱい

～あなたは本当にだいじょうぶ?～

楽しくて便利なSNSですが、多くの子供が性被害にあっています。実際にあった事件を三つ紹介します。

じけん  
1

「裸で踊ってみた」をやってみたら……

① 人気の動画アプリにダンス動画をアップしてみた! なかなか「いいね」が増えないよ～(T\_T)

② 服を脱いで踊ってみた! たくさんの「いいね」がもらえちゃった! 裸の動画だったかもっともらえるかも……(^\_^)

③ 私の裸の動画が、勝手に投稿されて広がっている!



裸や裸に近い動画や写真をネットに載せてはゼツタイダメ! 知らない間に広まって一生消えないこともあるよ! ※男子も同じような被害に遭っています。

じけん  
2

優しいお兄ちゃんと思ったら……

① 違う学校の人に悩みを相談したいな～。子供限定だっていうSNSをやってみようかな……

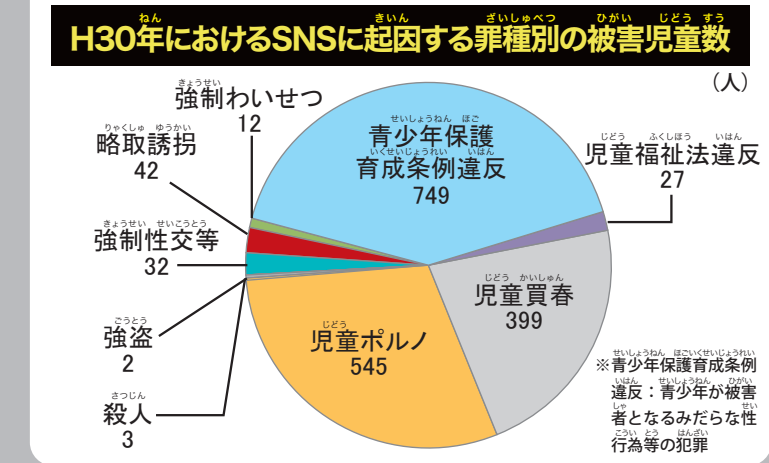
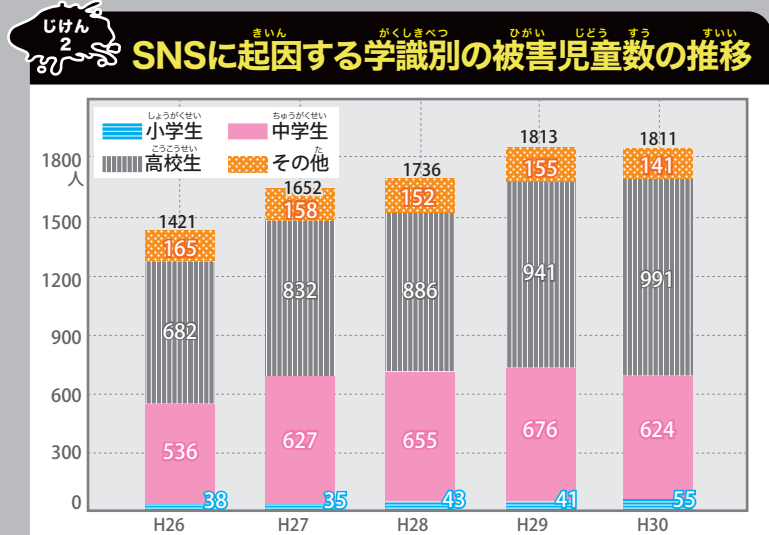
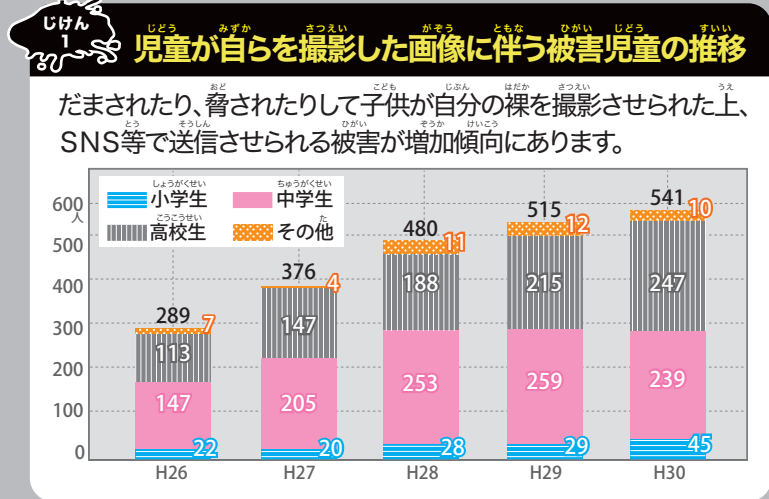
② 仲良くなった高校生の〇〇君がすごく優しい! 顔写真や住所・電話番号を知りたいって言うから送っちゃったけどいいよね?

③ 誘われて会ったら本当は怖いおじさんで、無理やり裸にされて……



ネットで知り合った人は知らない人といっしょ。優しいフリをしている怖い大人もいるから会うのはとても危険だよ!

ネットのトラブルは、ひとりで悩まずに家族や先生に相談しましょう!



## フィルタリングを必ず使いましょう！

### フィルタリングの状況

被害児童の約9割がフィルタリングを利用していませんでした。

### 必ずフィルタリングを！

青少年インターネット環境整備法では販売店等に対し、青少年が携帯電話を使用する際の年齢確認やフィルタリングの説明を義務付けています。保護者は説明をしっかり聞き、年齢や利用状況に応じたフィルタリングを設定しましょう。

## 親子で見てもらいたいサイトの紹介

●警察庁Webサイト 子供の性被害対策

各種啓発リーフレットや動画の紹介

[https://www.npa.go.jp/policy\\_area/no\\_cp.html](https://www.npa.go.jp/policy_area/no_cp.html)

●文部科学省のYoutube公式サイト

「情報化社会の新たな問題を考えるための教材(16教材)」の紹介

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f-4u\\_Mx-BCn13GyWdI](https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f-4u_Mx-BCn13GyWdI)

●内閣府Webサイト

各種普及啓発リーフレット

内閣府では子供が安全に安心してネットを利用できるように家庭でのルール作りの例などを紹介しています。

[https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet\\_use/index.html](https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_use/index.html)

## 性被害に関してどうしたらいいかわからない、話を聞いてほしいときの相談窓口(民間団体)

**NPO法人ライトハウス** (受付時間：平日午前10時～午後5時)

**0120-879-871** (電話代無料/匿名可)

<https://lhj.jp>

■LINEによる相談 LINEのID: @lh214

■メールによる相談 メールアドレス: soudan@lhj.jp

**NPO法人ぱっぷす** (受付時間：24時間365日、いつでも)

**050-3177-5432** (匿名可)

<https://paps.jp>

■LINEによる相談 LINEのID: @paps24

■メールによる相談 メールアドレス: soudan@paps.jp

## こまったときの相談窓口

子供の性被害等に関する相談窓口案内Webサイト

「ぴったり相談窓口」

<https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/annai/index.html>

**警察相談専用電話 #9110** 最寄りの警察本部の相談窓口につながります。

**24時間子供SOSダイヤル**

**0120-0-78310**

文部科学省Webサイトの相談窓口

<http://www.mext.go.jp/jijime/detail/dial.htm>



## チャイルドライン

さい い か せいしやうねんたいしやう そ だん まど ぐち  
18 歳以下の青少年対象の相談窓口

0120-99-7777

つうわだいむりやう とくめいか  
通話代無料 / 匿名可

うけつけじかん まいにちご こ じ  
受付時間…毎日午後 4 時～午後 9 時

チャット相談はこちら



## ライトハウス

0120-879-871

つうわだいむりやう とくめいか  
通話代無料 / 匿名可

LINE による相談 LINE の ID:LH214

メールによる相談 メールアドレス:soudan@lhj.jp

うけつけじかん へいじつごぜん じ こ こ じ  
受付時間…平日午前 10 時～午後 7 時

このほかにも多くの相談窓口があります。SNS による相談を受け付けている地域や、相談、医療受診、カウンセリング等必要な支援を一か所で行う「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」もあります。

せいはんざい せいぼうりよくひがいしや しえん  
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター

[http://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/avjk/pdf/one\\_stop.pdf](http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/avjk/pdf/one_stop.pdf)

うけつけじかん かききかん ちが  
※受付時間は各機関によって違います。

ワンストップ支援センター

けん さく 検 索



あなたへの  
メッセージ

このリーフレットは、性被害にあっても気がついていない子供たちに「これって、自分のことかな？」と気づいて相談してもらい、これ以上被害にあわないようにしてもらいたい、少しでも安心して生活できるようになってもらいたいという願いで作りました。

あなたは一人ではありません。まずはあなたが相談してみようと思った「だれか」や「どこか」に相談してみてください。  
何ができるか、どうしたらいいのか、一緒に考えましょう。

## 家庭内での早期発見・早期対処が子供の未来を救います！

性被害等から子供を守るために、日頃から家庭内でコミュニケーションをとりながら、性被害の危険性を教えること、子供の異変や SOS にいち早く気が付くことが大切です。異変を感じたら、子供を責めずに子供の話に耳を傾けてあげてください。そして保護者の方も一緒に相談ください。

保護者の方へ

家庭のルール

## ✓ 以下の点をお子さんと一緒にチェックしてみましょう Check!

### 《生活一般に関する注意点》

- ☐ 学校に行きたがらない、週明けになると体調を崩す等変化が見られないか。
- ☐ 家族との接し方に変化が見られないか。
- ☐ 夜眠れないと言う、特定の家族を避ける、必要以上に甘える等不自然な状態はないか。
- ☐ 子供にとって家庭が安心して生活できる場所になっているか。
- ☐ 困ったことがあれば、必ず保護者や大人に相談するよう伝えているか。

### 《スマートフォンに関する注意点》

- ☐ フィルタリングを設定し、家庭のルールを作っているか。
- ☐ 接続するサイトやダウンロードするアプリは保護者で確認しているか。
- ☐ 個人を特定される情報を書き込んでいないか。
- ☐ 知らない人と SNS やメール、写真のやり取りをしていないか。
- ☐ どんな理由でも裸や下着姿の写真は撮らない、撮らせないよう伝えているか。



# あなたは気づいていないかも!?

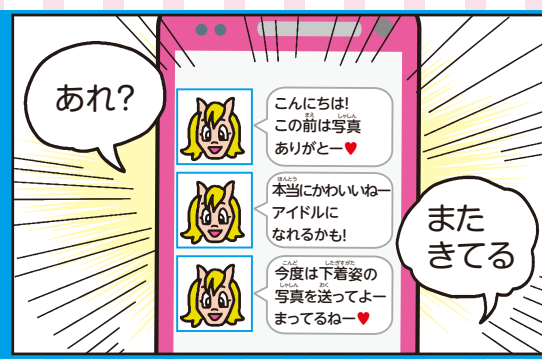


「あれ?おかしいな?」「やっぱり変なのかな?」と思っただけで、言い出せずにいることって、ありませんか? 大人に相談することは恥ずかしいことではありません。安心して相談してください。

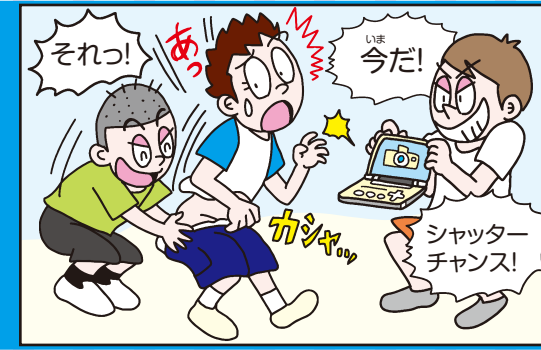
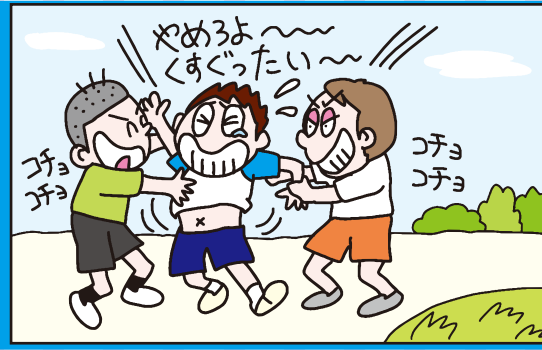


# こんなことないですか？

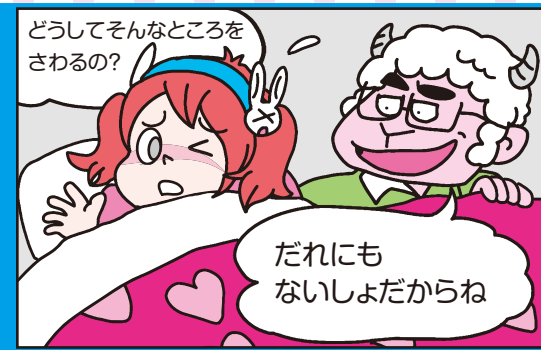
**1 ネットで知り合ったお姉さんに頼まれて…**  
インターネットゲームで知り合った少し年上のお姉さんとネット上で仲良くなり、顔写真を送ってと何度も頼まれたので自分で写真を撮って送ってあげた。そのあと、どうしても頼まれたので、下着姿や裸の写真も送った。



**2 友達と遊んでいるときに…**  
同級生数人と遊んでいて、ふざけ合っていたときに携帯ゲーム機で裸の写真を撮られた。後になって、写真を消してもらおうとしたが消してくれず、イヤな気持ちになった。



**3 2人だけの秘密と言われ…**  
夜寝るとお父さんが布団の中に入ってきて、パジャマの中に手を入れてきて身体を触ってくる。変だなとは思っているけれど、お父さんからは「誰にも内緒だよ。みんなやってることだから。」と言われていたので、お母さんには言えなかった。

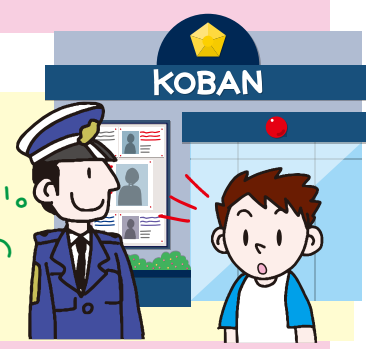


「あれ、おかしいな、ちょっと変だな…」  
⇒その気持ちを大事にしていよう。  
「イヤだと思う自分がおかしいのかな…」  
⇒あなたの大切なからだです。イヤだって言っていいいんだよ。  
「内緒と言われてこわくなった…」  
⇒信頼している人に話していいいんだよ。  
だから、すぐに相談してね。

**Q. だれに話せばいいの?**  
**A. あなたの家族や学校の先生、養護の先生、あなたの周りにいる信頼している大人などに話しましょう。**



**Q. 知っている人に話せないときは?**  
**A. いろいろな相談窓口があるので、相談してください。子供から話を聞く仕事をしている警察官や専門家の大人があなたの話を聞いてくれます。**



**Q. 相談窓口で相談するとどうなるの? 家族や学校にも知られてしまうの?**  
**A. あなたが安心できるよう、いろいろな手助けをします。不安はあるかもしれませんが、その不安も含めて相談してください。どうしたらいいか、あなたと一緒に考えます。**



## 相談窓口 (そうだんまどぐち)

**警察 (けいさつ)**

☑️**最寄りの警察署**…近くの警察署、交番に直接相談してください

☑️**警察相談専用電話 #9110**  
(警察本部の相談窓口につながります)  
※受付時間は都道府県警察によって違います。  
時間によっては音声で案内する場合があります。

☑️**少年相談窓口**  
少年相談窓口 検索

<http://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/soudan.html>

☑️**性犯罪被害相談電話 #8103 (ハートさん)**  
(最寄りの警察本部の相談窓口につながります)  
※受付時間は都道府県警察によって違います。  
時間によっては音声で案内する場合があります。

☑️**匿名通報ダイヤル ☎0120-924-839**  
(窓口の人が被害内容を聞いて、警察に伝えてくれます。窓口の人は、警察官ではなく業者の人です)  
※受付時間…平日午前9時30分~午後6時15分 (通話代無料)  
モバイルサイト <http://www.tokumei24.jp/>  
※24時間オンライン受付

**法務局 (ほうむきょく)**

子どもの人権 110 番 (最寄りの法務局・地方法務局につながります)  
☎0120-007-110 ※受付時間…平日午前8時30分~午後5時15分 (通話代無料)  
子どもの人権 SOS ミニレター※全国の小・中学校で配布しています

**児童相談所 (じどうそうだんじょ)**

児童相談所全国共通ダイヤル **「189」** (いちはやく)  
(最寄りの児童相談所につながります) ※受付時間…24時間

**文部科学省 (もんぶかがくしょう)**

いじめ問題などの相談窓口「24時間子供 SOS ダイヤル」  
☎0120-0-78310 (なやみいおう) ※受付時間…24時間 (通話代無料)  
(原則として電話をかけた所在地の教育委員会の相談機関につながります)

匿名っていうのは、名前を言わなくてもいいってことだよ。  
あなたの思ったことを聞かせてね。



## 「いい人」だと思っていたのに。



私は「**性的な被害**」を受けました。

したくないことを、  
させられました。

まさかそんな人だとは、  
思いませんでした。

気づけば追い込まれていて、  
とても怖くて、  
どうしたらいいか分かりませんでした。

これを人に言うのは怖かったけど、  
みんなに知ってほしいんです。

実際に、  
こうした性的な  
被害が  
起きています。



## AV出演強要

モデルにならないかと誘われ  
て事務所と契約したのに、撮影  
現場に行くアダルトビデオの  
出演だった。



## JKビジネス

「一緒にお茶するだけ」  
「写真撮るだけ」のバイト  
と聞いていたのに、客に性  
的な行為を強要された。



## レイプドラッグ

出された飲み物を飲んだら、  
薬が混入されており意識が  
なくなった。目がさめると、胸  
や下半身を触られていた。

もう、ひとりで悩まないで。相談できる場所があります。

相談窓口など詳しくは

NO! AVJK 政府広報

検索



# もう、ひとりで悩まないで。 相談できる場所があります。

AV出演強要

JKビジネス

レイプドラッグ

 プライバシーに配慮し、秘密は厳守します。安心して相談してください。

## 【「AV出演強要」「JKビジネス」に関するトラブル】

### 警察相談専用電話

犯罪被害の未然防止に関する相談等各種相談に応じる窓口です。



#9110

発信場所を管轄する都道府県警察の本部の総合窓口につながります。  
(最寄りの警察署でも対応します。)

【土日・祝日及び執務時間外】

24時間受付体制の一部の県警を除き、当直または音声案内で対応します。

## 【性犯罪・性暴力被害】

### 性犯罪被害相談電話

性犯罪の被害等の相談に対応します。



ハートさん  
#8103

発信場所を管轄する都道府県警察の性犯罪被害相談電話につながります。

【土日・祝日及び執務時間外】

当直で対応します。

### 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター

性犯罪・性暴力に関する相談について、関係機関と連携し、産婦人科医療、相談・カウンセリング等の心理的支援、捜査関係の支援、法的支援等を行います。

(各センターによって、支援内容は異なります。)



詳細は、下記のページをご覧ください。

[http://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/seibouryoku/consult.html](http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html)



## 【法的トラブル】

### 日本司法支援センター(法テラス)

様々な法的トラブルの解決に役立つ適切な法制度や相談窓口を紹介します。



法テラス・サポートダイヤル

おなやみなし  
0570-078374

【IP電話からは:  
03-6745-5600】

【平日】午前9時～午後9時 【土曜日】午前9時～午後5時

※メールによるお問合せは法テラスホームページで24時間受付中。

## 【性的画像を含むインターネット上の問題】

### 女性の人権ホットライン(法務局)

女性をめぐる様々な人権問題についての相談窓口です。  
性的な画像を含むインターネット上の人権侵害情報について相談を受け、事案に応じた適切な対応を行います。



0570-070-810

最寄りの法務局・  
地方法務局に  
つながります。

【平日】午前8時30分～午後5時15分

### 違法・有害情報相談センター

インターネット上の名誉毀損、プライバシー侵害、人権侵害などに関する書き込みへの対応や削除要請方法、その他トラブルに関する対応方法などについて、アドバイス等をメールで行います。



【ウェブフォームにて24時間受付】

<http://www.ihaho.jp>





# 就職・採用活動におけるハラスメント的な行為について

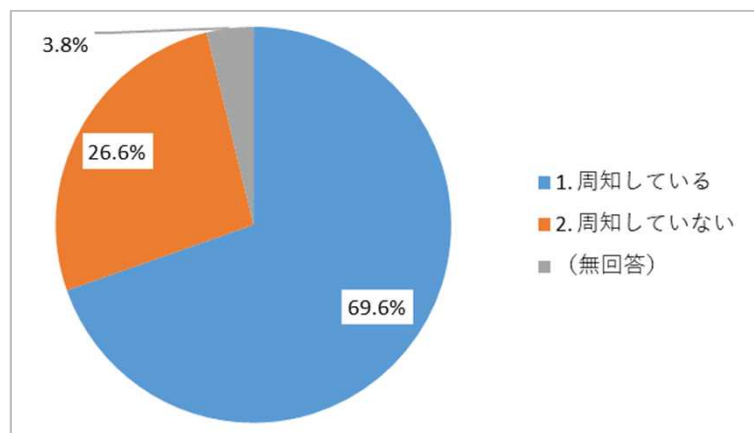
## ＜ハラスメント的な行為全般の対応について＞    ＜相談に対する体制について＞

○就職・採用活動においてハラスメント的な行為を受けた場合、大学へ相談するよう周知しているかを尋ねたところ、「周知している」とした大学等が69.6%であった。

○学生からの相談に対する大学等の相談体制はどのようになっているかを尋ねたところ、「大学等のキャリアセンター（就職支援担当）が主に対応」と回答した大学等が77.0%であった。

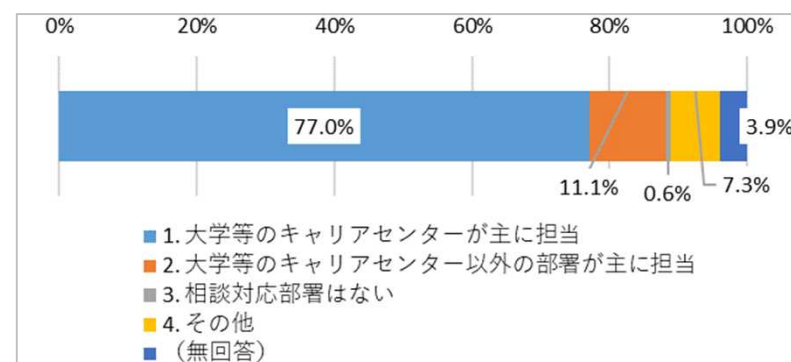
【学生に対して、就職・採用活動においてハラスメント的な行為を受けた場合、大学へ相談するよう周知していますか】（単一回答）

N=1,106



【学生からの相談に対する大学等の相談体制はどのようになっていますか】（単一回答）

N=1,106



※文部科学省（協力：就職問題懇談会）「2019年度就職・採用活動に関する調査（大学等）（速報版）」より抜粋

# 就職活動中の学生に対するセクシュアル・ハラスメントについて

## 事例

- ・食事やデートに執拗に誘われる。
- ・OB訪問等において性的な関係をもちかけられる。
- ・性的な冗談を言われる／性的なからかいを受ける。
- ・個人的連絡先を聞かれる。
- ・社外での面談、社外での待ち合わせを要求される。
- ・異性との交友関係について質問を受ける。
- ・結婚の予定、結婚観について質問を受ける。
- ・個人的内容を含む連絡を受ける。
- ・身体を触られる。

## 大学における取組事例

- ◆ 就職活動に関するガイダンスやインターンシップに行く前のガイダンス等において、ハラスメントにあった場合は大学へ相談するように伝え、実際に相談があった場合には、大学から企業へ申し入れを行っている。
- ◆ ハラスメントに遭わないよう十分注意して就職活動を行うよう、学生に対して一斉にメールを送信するなど、学生に対して注意を呼び掛けている。
- ◆ OB訪問に関して、ある程度の距離を持つように学生にアドバイスし、不安があるときは大学に連絡するように伝えている。
- ◆ 学生からの相談を受けて、同じ企業の選考を受けている学生に対して注意喚起を行い、未然に被害を防いだ。
- ◆ 学生の希望に沿って企業の問合せ先を紹介し、学生から企業に対し抗議を行った。
- ◆ 企業に申し立てたところ、企業側でも事情を把握し、謝罪の連絡があった。
- ◆ 面接官の発言にセクハラ的な言葉があり不快に感じたということで学生が相談に来られたので、カウンセラーが学生の心のケアを行った。

上記の取組事例を参考に、学生に対し学内の相談部署の周知、学生からの相談への適切な対応をお願いします。また、都道府県労働局等に設置されている「**総合労働相談コーナー**」に相談することも可能であるため、適宜活用・連携し対応をお願いします。



【厚生労働省HP「総合労働相談コーナー」】<https://www.mhlw.go.jp/general/seido/chihou/kaiketu/soudan.html>



## 学生の就職選択を妨げる行為—いわゆる「オワハラ」について—

企業が人材確保に熱心になるあまり、就職活動中の学生に対して、次のような行為を行うことがあります。

- 自社の内々定と引き替えに他社への就職活動を取りやめるよう強要するなどの職業選択の自由を妨げる行為
- 学生の意思に反して就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為

### 具体的な事例

- ◆ 面接担当者の目の前で、他社に就職活動の辞退を電話させたり、メールを送るよう強要された。
- ◆ 内定承諾書（誓約書）などの提出を求められ、すぐに提出しないと内々定を取り消すと言われた。
- ◆ 内々定後、懇親会が頻繁に開催され、必ず出席するよう求められた。

大学等の皆様におかれては、学生に対してハラスメント相談窓口の周知、学生から相談があった際には適切な対応をお願いします。  
また、学生にも安易に複数社に応募しないといった節度ある就職活動が求められるので、適切な指導をお願いします。



## 事業概要

### <現状と課題>

- 青少年のインターネット平均利用時間は約169分と増加傾向
- 低年齢の子供（2歳～9歳）も平日1日あたり約90分程度インターネットを利用
- ネット依存の疑いのある中高生は約93万人と5年前の調査（51万人）と比較して約40万人増加
- 令和元年、世界保健機構（WHO）が「ゲーム障害」を国際疾病分類（ICD11）に追加
- 家庭におけるインターネット利用に関するルールについて、児童生徒の実態と保護者の認識にギャップが見られる。（「ルールを決めている」との回答は15.4ポイント差）
- フィルタリングの利用率は約37%と低迷
- SNSで被害にあった児童生徒は高止まり（H30年1,811人）しており、被害児童生徒の約9割がフィルタリングに未加入

インターネット等の適切な使用やネット依存・ゲーム依存を含む各種依存症予防について、関係法令等に基づき、**保護者と青少年に直接働きかける啓発と教育活動を推進**することにより、青少年の健全育成を図る。

## 事業のスキーム

都道府県や民間団体に委託し下記の取組を推進。

- 家庭や地域の力を活用したネット安全安心推進事業
- 青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業
- 依存症予防教育推進事業

全国的なフォーラムを実施し、各事業における**成果を全国に発信**することで、**各地域で主体的に実施される、インターネットの適切利用に関する保護者・青少年への教育・啓発活動の増加を図る。**

## 関係法令・計画

【青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律（平成20年法律第79号）】

第九条 国及び地方公共団体は、青少年がインターネットを適切に活用する能力を習得することができるよう、学校教育、社会教育及び家庭教育におけるインターネットの適切な利用に関する教育の推進に必要な施策を講ずるものとする。

【第4次青少年インターネット環境整備基本計画（平成30年7月27日決定）】概要

- 低年齢層の子供保護者のニーズや環境の多様性を踏まえた啓発の推進及び啓発手法の検討
- 地域における等身大の相談相手となれる人材の育成支援
- 地方自治体による継続的な官民連携対策への支援
- SNSに起因する青少年の被害防止に向けた取組の支援

## 成果

- 青少年のスマートフォンのフィルタリングサービス利用率の向上
- インターネット利用に関する家庭のルールを決めている割合の向上
- 保護者や青少年の依存症に関する知識の向上

- SNS等に起因する被害児童の減少
- ネット依存傾向にある子供の減少
- 将来的な依存症者の減少

# 各メニューの具体的な取組

## 1. 家庭や地域の力を活用したネット安全安心推進事業

### ●ネットモラルキャラバン隊

PTAや教育委員会等と連携し、各地域で保護者等を対象としたシンポジウム等を開催

- (1) 積算：4,312千円 × 1団体
- (2) 委託先：民間団体
- (3) 30年度実績

全国7箇所で開催 約1,400名が参加

- (4) これまでの成果

延べ約18,400人（H23～H30）の保護者に対し、家庭でのルール作りの大切さとフィルタリング利用の重要性等について講演を行い、保護者のリテラシー向上に寄与した。

### ●ネット対策地域スタートアップ事業

急速に普及していくネット環境に対応するため、地域における先進的な取組のスタートアップを支援

- (1) 積算：2,138千円 × 4地域
- (2) 委託先：民間、地方公共団体
- (3) 30年度実績（例）

インターネット利用の実態や青少年の主体的なルール作りの推進について大人と子供がともに考え連携を広めるためのワークショップを実施。

- (4) これまでの成果

インターネットの適正利用等について、啓発活動を行うメディアリテラシー指導員の養成が各地域で独自に行われている。

## 2. 青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業

### 【拡充】

青少年教育施設を活用し、ネット依存傾向の青少年を対象とした自然体験や宿泊体験プログラムの実施を通じたネット依存対策を推進する。

- (1) 積算：3,092千円 × 4団体

**【ネット依存傾向の中高生の増加等を踏まえ各地域において取組を普及していくために実施箇所数を増：3団体→4団体】**

- (2) 委託先：民間、地方公共団体
- (3) 30年度実績（例）

国立信州高遠青少年自然の家で、国立久里浜医療センターと連携し、プログラム内に「認知行動療法」などを用いた8泊9日のキャンプを実施。19名が参加し、キャンプ後、ネットの使用時間が短くなるなど一定の改善が見られた。

- (4) これまでの成果

当初は機構のみ1カ所での実施であったが、28年度以降は複数の都道府県でも実施しており、様々なネット依存対策の体験学習プログラム事例を収集。

## 3. 依存症予防教育推進事業

依存症予防教育に関するシンポジウムを実施するとともに、「依存症予防教室」の開催等を行う。

- (1) 積算：①シンポジウム 995千円  
②依存症予防教室 1,188千円 × 7地域
- (2) 委託対象先：民間、地方公共団体
- (3) 30年度実績（例）

- ・国において厚労省と連携し、依存症の現状や予防教育の取組事例を紹介する「依存症予防教育シンポジウム」を開催
- ・教職員や保護者を対象とした薬物、ギャンブル依存の実態や知識を身に着けるための講座を3か所（広島・北海道・仙台）で実施（約300名受講）

- (4) これまでの成果

民間の各種依存症支援団体が参画することで各地域において各団体の特色を生かした様々な依存症に関する啓発講座を開催。



国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

## 背景

- 核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化  
〔児童(18歳未満)のいる世帯のうち、核家族世帯の割合：70.0%(H10) → 83.3%(H30)〕〔児童(18歳未満)のいるひとり親世帯の数：約76万世帯(H30)〕
- 身近な相談相手がいない、子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立してしまうなど、家庭教育を行うことが困難な社会  
〔地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合：34.2%(H28)〕〔子育てする人にとって地域の支えがとても重要・やや重要だと思う：90.9%(H25)〕
- 児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は一貫して増加  
〔児童相談所での相談対応件数：11,631件(H11) → 159,838件(H30) (H11年度に比べて、約13.7倍)〕

※以下の取組を行う自治体（都道府県、市町村）を支援（計1,000カ所）（都道府県等（指定都市、中核市を含む）の場合、補助率は国：1/3、都道府県等：2/3）

## 地域人材の養成

### 家庭教育支援員等の養成

- 家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う人材を養成
- 支援活動の企画・運営、関係機関・団体との連携等を担う中核的人材を養成

地域の多様な人材の参画  
(例)



## 家庭教育支援体制の構築

### 家庭教育支援員等の配置

- 小学校等に家庭教育支援員を配置するなど身近な地域における家庭教育支援の体制を強化

### 家庭教育支援チームの組織化

- 家庭教育支援員などの地域人材を中心としたチームの組織化

#### 【チーム構成員の例】

子育て経験者、元教員、PTA関係者、SSW、民生委員、児童委員、保健師等

## 家庭教育を支援する取組

### 保護者への学習機会の効果的な提供

- 就学時健診や保護者会など、多くの親が集まる機会を活用した学習機会の提供（子育ての方法、虐待防止等）

### 親子参加型行事の実施

- 自己肯定感や自立心など、子育ての不安解消や社会を生き抜く力を養成するため、親子での参加型行事やボランティア活動、地域活動等のプログラムを展開

### 相談対応や情報提供

- 悩みを抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭の状況に応じて、家庭教育支援チーム等による情報提供や対応を実施

## 支援が届きにくい家庭への対応（アウトリーチ型支援）の充実（児童虐待防止等）

- 家庭教育支援員等に対する研修強化（子供の育ちをめぐる課題（虐待等）対応）

- 関係機関との協議・連携による情報共有等の実施

- 保護者に寄り添うアウトリーチ型支援(※)の実施  
(※家庭教育の自主性を尊重しつつ、自宅や学校、企業等に出向いて、個々の保護者に届ける支援（情報提供、相談対応、話し相手等）)